

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170201768		
法人名	社会福祉法人 札幌蒼生会		
事業所名	グループホーム栄町 2階はるかぜ		
所在地	北海道札幌市東区北46条東16丁目1番18号		
自己評価作成日	令和7年1月5日	評価結果市町村受理日	令和7年3月21日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyvoyoCd=0170201768-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ		
所在地	札幌市北区麻生町3丁目5の5 芝生のアパートSK103		
訪問調査日	令和7年1月30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・リビングの窓が大きく開放的な景色を見渡せる。 ・毎月リビングや廊下スペースに季節感のある飾りつけをしている。 ・施設の中にデイサービス・小規模多機能が併設されているので、状態が変化してサービスを変更する際には情報の共有がしやすく適切なサービスを提供できる。 ・年間行事では春夏秋冬を感じていただける内容で取り組んでいる。 ・夏にはベランダで、家庭菜園を行い楽しんでいる。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>地下鉄栄町駅から徒歩で数分の所にある、4階建て介護複合施設の2階と3階にグループホーム栄町はある。建物内の居宅介護支援事業所、デイサービス、小規模多機能ホームと連携が取れやすい環境にある。廊下には自由に座れる椅子を設置し、居室やリビング以外でもノンビリと過ごせる場を確保している。窓からは公園が見渡せ、居間や廊下は床暖で暖かく、エアコン、加湿器、空気清浄機、サーキュレーターを使用し、快適な温・湿度を保っている。今年度は利用者の体調不良により桜の時期の外出が叶わなかったが、時期をずらして百合が原公園に出かけるなど柔軟に対応している。医療面では月2回の訪問診療と週1回の看護師による健康チェックを行い、24時間での連絡体制が確保され、安心できる医療を提供している。重度化した場合は医師や家族と連携をとりながら看取りも行っており、利用者の人格と尊厳を尊重し、最後まで自分らしい生活が出来るよう職員共々寄り添い支えている事業所である。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目: 23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目: 9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目: 18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目: 2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目: 38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目: 4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目: 36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目: 11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目: 49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目: 30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目: 28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価			外部評価		
			自己評価	実施状況	外部評価	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営								
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各ユニットや玄関に掲示し、職員の意識づけを図っている。毎年の新年度の会議で再確認し実践に繋げている。	理念を基に職員が毎年運営計画の目標を3つの項目で策定し実践している。理念は事業所の要所に掲示し、職員は理念を基に利用者へ寄り添い支えながら暮らしをサポートしている。				
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	行事にボランティアを依頼したり、町内会のお祭りイベントに参加し地域との関わりを保っている。	利用者は町内の祭りに参加しマルシェで買い物をしている。今年度はマジックショーのボランティアの受け入れを行った。回覧板の広報誌から地域の情報を収集し参加できそうな事を検討している。				
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や広報誌を通して、事業所の情報を発信している。					
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月ごとに開催している。事業所の活動状況を報告し、地域の情報や意見を教えていただき運営に活かしている。	町内会役員、地域包括支援センター職員、デイサービス施設長、小規模多機能ホーム管理者が集い、2か月ごとに開催している。次回開催日も明記し、詳細に記録された議事録を家族へ送付している。	会議に利用者家族に出席を依頼し、参加が見込めない場合は事前に意見を収集して、会議の場で話し合う等の検討をすることが望まれる。			
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括や市の担当者と運営推進会議や電話にて情報交換を行っている。	主に管理者が定期報告や提出書類、オムツサービス、介護認定についての確認や相談をメールや電話等で連絡をしている。介護認定の申請や家族を代行して保護課へ入居申請や行政からの調査依頼に協力をしている。				
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	会議や勉強会にて知識を深め、職員は身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。	身体拘束委員会を運営推進会議と併せて開催し、研修は6月に身体拘束適正化の方針や禁止項目を全職員で確認し、1月には身体拘束について行っている。職員は身体拘束をする必要のない介護を実践している。センサー使用時はケアプランに経過を記録している。				
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	外部研修に参加し、勉強会を通し職員で話し合い利用者様の尊厳を守る事についての理解を深めている。					

グループホーム栄町 2階はるかぜ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会が少ない為、今後研修や勉強会で制度の理解を深め必要な時に活用したい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	不安がないよう利用者様・ご家族様に説明を行い疑問点を伺うとともにいつでも相談に乗れる環境を整えている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様の要望をくみ取れるよう日々コミュニケーションを取っている。ご家族様へも小まめに連絡を取り意見や要望を聞き取っている。また、玄関にご意見ポストも設置している。	面会や電話で家族からの意見を聞いている。事業所から写真付きの便りを送付し日々の様子を詳細に伝えている。利用者とは日々の関わりで意見を聞いて支援に活かしている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議や日々の中で意見交換し実現可能な事は働きかけや実現に向け取り組むよう努めている。	会議や業務中に職員から意見を聞き、提案等を運営に反映させている。職員からの記録の記入方法や書式の変更等、業務改善がされている。希望休の取得や勤務日の調整等をして、働きやすい職場環境となっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人目標を設定し達成できるよう取り組んでいる。個人の状況に合わせて相談しながら環境整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修に参加する機会を設けている。また、研修委員会にて定期的に内部研修を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流は少ない。今後、積極的に取り組んでいきたい。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価			外部評価		
			実施状況	実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援								
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に事前に面談を行い情報収集し、ご本人の不安や要望を聞きその人らしく安心して生活が出来るよう務めている。					
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に事前に面談にて不安や要望傾聴し細やかな事でも話がしやすい環境づくりに努めている。					
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族様が求めているサービスを見極め、状況に合わせて他のサービス利用も含め対応している。					
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除や家事を行えることはスタッフと一緒にいきいきと生活できる関係づくりに努めている。					
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の特変時には都度報告をし、電話や毎月のお手紙にて日常生活を報告・情報共有を図っている。					
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	日々のコミュニケーションの中から利用者様の好きな物や場所を聞き出している。希望に沿えるよう取り組んでいきたい。	親族や家族との電話、手紙等の支援で馴染みの関係を継続している。面会は利用者の居室で落ち着いて会話できるよう支援をしている。家族と受診帰りの食事や一時帰宅している利用者もいる。				
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに関わり合い、支え合えるような支援に努めている	円滑にコミュニケーションが取れるよう必要に応じ職員が仲介している。座席の配慮や活動の声掛けを行っている。					

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去時、今後も何かあればいつでもご相談になるので気軽にご連絡いただくようお願いしている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のケアを通して思いや希望の把握に努めている。またご家族から情報収集し少しでも意向に沿えるよう取り組んでいる。	日々の会話で意向を確認しているが、会話が難しい場合は家族からの情報や過去の記録、表情と声の様子で判断している。選択場面も活用しながら、希望や意向の把握に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の情報やご家族から情報収集している、また日々のケアを通して本人より情報を集め把握に努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の観察で変化があれば記録や申し送りで現状の把握をし情報の共有をしている。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月に1回、または状態変化時に統一したケアが出来るよう職員で話し合い見直しをしている。本人の意向や家族の意見を反映するよう努めている	担当職員が3カ月毎にモニタリングをし、6カ月毎に会議で、アセスメントをして、計画作成担当者が評価し、家族の意見を取り入れ作成している。特変や入院等の際は都度見直し、現状に即した計画に変更している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録や申し送りなどで情報共有し毎月の会議でケアの統一を行ってから実践に取り組んでいる。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	デイサービスや小規模多機能の設備を利用する機会がある。その都度要望を相談しやすい関係づくりに努めている。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会の活動やボランティアの受け入れを対応している。			
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的な往診と週1回の訪問看護で体調管理している。また受診が必要な際には本人やご家族の希望を確認し対応している。	協力医が隔週で訪問し、看護師も毎週健康チェックを行い、医師と連携をしている。他科受診は原則、家族の同行受診であるが事業所で代行受診をする場合もある。投薬変更等を家族へ連絡し情報を共有している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護で日常の様子や変化を報告相談している。24時間オンコール体制にて必要際には相談し指示をいただいている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	早期退院の向けご家族・病院と情報交換を行っている。あらかじめご家族から希望の病院をお聞きし緊急時対応できるようにしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の指針を説明し意思確認書にて定期的にご家族の要望を確認している。	契約時に重度化した場合における対応指針を説明し同意を得ている。医師、看護師、家族と情報を共有しながら職員は利用者が穏やかに最後まで暮らせるよう支援をしている。職員は看取り後に振り返りの勉強会をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会で学んで、実践に備えている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的避難訓練を行い緊急時に備えている。近隣の施設と協力体制を築いている。	R6年3月に地震からの火災、9月は日中火災と水害を想定した訓練を行い消防署へ届けている。災害時は町内会と特別養護老人ホームから協力が得られる。備蓄品も確保しており災害に備え避難先を家族へ周知している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声掛けや介助中に配慮し、誇りやプライバシーを損ねないよう心掛けている。	5月と10月に人権擁護の研修を行い、不適切な態度や声掛けのないように取り組んでいる。利用者の呼びかけは苗字に「さん」を付け、尊厳を重視した接遇を徹底している。個人記録等の書類は厳重に保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	それぞれに合わせた声掛けをし、自己決定出来るように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	都度意思の確認を行い、食事や入浴など本人のペースを尊重し疲れや眠気が見られたら休息を取り入れるなど対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に訪問美容で身だしなみを整えている、プレゼントする際にはご本人の好きな色や好みそうな物を用意している。		

グループホーム栄町 2階はるかぜ

自己評価	外部評価	項目	外部評価		
			自己評価	実施状況	実施状況
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	行事などではバイキング形式で好きな物を選んでもいただいたり、季節を感じながら食事を楽しめるよう努めている。	嚥下状況に合わせた形状や量を利用者に合わせて提供している。季節行事に合わせて雛あられ、弁当、チラシ寿司や刺身、フルーツパフェを提供し喜ばれている。外出の際、フードコートで好みの食事をする機会もある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	全員の摂取量を把握している。摂取量が少ない際は小まめに提供したりと工夫をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、それぞれに合わせた声掛けや介助で対応している。また、歯科より口腔ケアマネジメントで技術的な指導を受け口腔ケアの質を向上させている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、個々に応じたトイレ誘導や介助方法で対応している。	個別の生活記録に記入した排泄記録で経過時間を確認し声掛け誘導をしている。失敗による不快な思いをしないよう夜間もトイレに誘導するなど個々に合った支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操やマッサージに加え、食後のトイレ誘導や、乳製品の提供をして予防に努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に合わせた支援をしている	体調や気分を確認し出来る限りご本人の希望するタイミングで入浴している。	1人週2回を基本に、入浴時は好みの湯温で職員と会話を楽しみながら、湯船に浸かる支援をしている。入浴後は水分補給にスポーツドリンクや茶を提供している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活リズムに合わせた対応をしている。また体調や状態に合わせて休息を取り入れている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師・医師・看護師から説明を受け目的や副作用を把握している。変化があれば医師・看護師へ相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の能力に応じ、それぞれの役割や楽しみに繋がるよう支援している。趣味活動やレクリエーション参加を促し気分転換図っている。		

グループホーム栄町 2階はるかぜ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	感染予防対策をしながら、少しずつ外出支援を増やしている。外食や町内会のお祭りなどへ参加している。	町内の祭りに参加し、マルシェで買い物をしたり、百合が原公園で散歩をしている。中庭に出て季節の花を鑑賞したり、事業所前で樹木の紅葉を見たりしている。病院受診に家族と外出している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人管理が難しい為、行えていない。ご本人の能力に合わせ支援出来るよう努めたい。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	定期的にご家族へ連絡した際には、ご本人に電話ウを変わり元気な声を聞かせられるよう支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングや廊下に季節の応じた飾りつけを楽しんでいただいている。感染予防の為、こまめに換気をしているが温度の調整をしながら対応している。	暖かみを感じられる季節の飾り、窓から隣の公園が見渡せるリビングで、利用者はソファや椅子に腰掛け自由に居心地よく過ごしている。リビングと廊下にエアコンがあり、加湿・空気清浄器やサーキュレーターも使用し、快適な温・湿度を保っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや椅子をリビングや廊下に設置している。皆で集まり話がしやすい空間や、一人でのんびりと外の景色を眺められる場所を設けている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人が使用してきた馴染みのある物やご家族の写真などを飾り居心地がよく過ごせるよう工夫している。	床暖房で広い居室には洗面台、クローゼット、十分なスペースの棚を設置している。入居以前からの使い慣れた物を持ち込み、利用者の希望を聞き、安全面を考慮して配置するなど、利用者が居心地よく過ごせるよう工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室前にはご本人のわかる人形を付けたりトイレと分かりやすく表示をしている。廊下の段差にはテープを貼りわかりやすくしている。		